

「第1期再編該当校」と県教委の懇談（2012-2020）

# 第1期高校再編 該当校の状況 と県教委への 要望



長野県高等学校教職員組合  
2021年4月

高教組は、2011年度から2019年度まで「第1期再編該当校と県教育委員会との懇談」を行いました。以下の記述は、懇談にあたって分会より寄せられた再編に関わる状況報告と県教委への要望の中から、統合に関わると思われる部分を、教財部でまとめたものです。施設・設備などその後改善されたものも含まれている可能性もあるため、要望の出された年も記入してあります。まとめるにあたって一部表現を変更させていただきました。

**【文責は教財部にあります】**

| 分会                     | 現在の状況及び困難点  | 県教委への要望事項  |
|------------------------|---|--|
| <b>飯山</b>              | <p><b>【統合について】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○2 段階統合による引っ越しの苦労は、非常に多忙で人的配置が欲しかった。</li> <li>○定例の職員会の他に、毎週最低に2回は統合会議(終了は9時近い)、会議が終われば議事録のまとめ、次回資料作成と仕事量がエンドレス。(2013)</li> <li>○(統合途中で)学校長が2校合わせて一人だけにするのはやめてほしい。(2014)</li> <li>○クラブ活動上の支障。両キャンパス合同でチームを組む、あるいは合同で練習をする状況があるが、練習の際の生徒のキャンパス間の移動が困難である。(2014)</li> </ul> <p><b>【施設・設備・予算】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○放送設備の不備(棟により放送が入らない、研究室放送できない等) (2016 /17)</li> <li>○統合当初、需用費等潤沢にあったが、統合の完成に至り激減の憂き目にあっている。(2018)</li> </ul> <p><b>【人的配置】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○統合業務にかかわるとされる療養休暇・休職中の職員がいる。(2018)</li> <li>○理科の科目担当者の片寄りが生じている。(2019)</li> <li>○寮の運営や舎監の体制に苦労している。(土日の昼間の指導・管理) (2019)</li> </ul> <p><b>【生徒の状況】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○統合により、生徒の学力幅がかなり拡大し、教育課程編成に困難を伴い、毎年教育課程の微変更に迫られている。(2018)</li> </ul> | <p><b>【統合にあたって】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○統合に関わる予算の確保(物品移動には職員生徒も関り、保険もかけなくてはならない)。老朽化した備品の修理などの予算確保。</li> <li>○(統合による)オーバーワークに対して、県はどのように考えているのか。何が原因なのかの検討も含め、定数増などの対策もお願いしたい。</li> </ul> <p><b>【現在】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○普通科、探究科、スポーツ科学科があり、教育課程が極めて複雑になっているので、教員の配置に関して配慮をお願いしたい。人事面の配慮。</li> </ul> |
| <b>中野<br/>立志<br/>館</b> | <p><b>【統合について】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○総合学科創設が突然表面化し、当時現場では困難と混乱が広がった。なぜ中実と中野が統合なのか。中野西との統合議論はなかったのか。なぜ総合学科だったのか。地域の意見を充分は時間をかけて聞いたのか。充分な議論がないまま再編が進められた。(2017)</li> </ul> <p><b>【施設・設備・予算】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○度重なる増改築を繰り返しており、新築物件と旧校舎が混在。旧校舎については生徒棟(ホームルーム棟)が最も古い建造物であると思われるが、冬季は極寒になり、夏は猛暑。生徒達の使用頻度が最も多い部分が問題である。</li> <li>○元実業高校の校舎のため、男子トイレの個室を薄い壁で仕切って女子トイレにしている。(2019)</li> </ul> <p><b>【人的配置】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○講師(常勤講師・非常勤講師)等数多くの教員が在籍しているので、教員間の連携がとりにくい。会議の多さも問題。(2018)</li> </ul> <p><b>【生徒の状況等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○単位制は本校生徒に合わない、地域の要望に応えられない。(2012)</li> <li>○入学数と卒業生数をみると、一期生 280 名定員、以降二期生</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○老朽化した施設(トイレなど)の改善</li> <li>○総合学科高校では科目数が多く、魅力ある科目選択の為にも教職員の加配をお願いしたい(引き上げられている)。(2014, 2016)</li> <li>○総合学科のあり方について、今後の展望を示してほしい。</li> </ul>   |

|                         |  |  |
|-------------------------|--|--|
|                         | <p>から現在まで 240 名定員できているが、二期生以降卒業生数は約 210 名前後である。即ち約 30 名前後の生徒が、本校を卒業せずに進路変更をしている。</p> <p>○2、3年生の継続履修の講座で、2年生の途中であきらめてしまう生徒がいても選択変更がきかず、単位修得が難しくなる生徒が多い。(4単位の講座がほとんどなので、落とすと大きい) (2018)</p> <p>○2、3年生が同時に受講する人気のある講座は、3年生が優先的に履修するため、講座選択の自由が制限されることがある。(2018)</p> <p>○履修・習得に関わる教科会、並びに類する会議が多く、毎年論議されているが、結論は見えてこない。シラバス作成に、追われている現状。</p>   |  |
| <p><b>須坂<br/>創成</b></p> | <p><b>【統合について】</b></p> <p>○再編に関わる情報が伝わって切るときはすでに方向性が定まった状況で、意見を言えるような状況ではない。(2011)</p> <p>○校舎改築の中身が現場には全くと言っていいほど見えず、本当に新校ができるのか不安がある。(2013)</p> <p>○普段の仕事に加えて、新校の準備という仕事をしなくてはならず、とにかく多忙で、疲れ果てている。どこまで合わせるのか手探りのまま進めているが、不安でいっぱいである。(2014)</p> <p>○図書館の行託司書の先生は、勤務日数、賃金の制限がある中で日常業務に加えて統合業務を 1 人で行うのには負担が多すぎた。引越し業務だけを優先せざるを得ず、本来の司書業務でない引越し業務ばかりやることになり、司書としては絶望感があるとのことである。(2017)</p> <p><b>【施設・設備・予算】</b></p> <p>○統合し、1 学年 7 クラス規模の学校になったが、それにふさわしい施設・設備になっていないため、支障をきたしている。(体育館が狭く、全校出席の卒業式が開けない。通常の全校集会の際も、ジェットヒーターを置くスペースがない。黒板の大きさや質・広さなどについて、HR 教室に差があり、不公平感がある。選択授業で使う普通教室が足りない、図書館が狭い、等)。(2016-2018)</p> <p>○旧須坂園芸キャンパスの施設では足りずに旧須坂商業キャンパスの施設を利用している。将来的に利用が可能なのか心配。(2018)</p> <p><b>【人的配置】</b></p> <p>○ 7 クラス規模(800 人以上)の学校なので、養護教諭の複数配置を法的基準に則って継続してほしい。</p> <p>○創造工学科の新設にあたり、県教育委員会から創成高校創造工学科へ負担を伴う要請がたくさん来るにも関わらず、人的な手当は十分ではない。(現場の犠牲を前提として「理念」を掲げている。)とにかく人が足りない。(2016)</p> <p>○「産業基礎」「学科連携」等、総合技術高校ならではの特色を出すために、準備委員会段階から、新しい科目・授業形態を設けるべしとの指示が県教委からあった。その授業を展開するに当たり、教員の加配を要求したが、ほとんどされなかった。おまけに講師の割合が高くなり、担任や兼務先との絡みなど、時間割を組むにあたって障害が急増し、次年度の時間割を組むにあたって、成立が危ぶま</p> | <p>○7クラス規模校に見合った施設の整備・充実</p> <p>○教職員の加配(講師による加配ではなく)</p> <p>○旧須坂商業キャンパスの施設利用の見通しの明確化</p> <p>○各学科の専門性が希薄にならないようにカリキュラムを柔軟に編成できる方が良いのではないか。(進路保障を考えて)・3 学科の統一的な思考だけではなく、学科ごとの特色を生かす内容も深めるべき。</p> |

|                               |  |  |
|-------------------------------|--|--|
|                               | <p>れている。〈2015〉</p> <p><b>【生徒の状況等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○多様な生徒がいる中で生活指導の問題、生徒相談を必要とする生徒、保健室を利用する生徒が増加している。教員の加配が必要である。〈2018〉</li> <li>○「産業基礎」を設けたため、「簿記」等の時間数が圧迫を受け、商業科生徒の検定の合格率が下がることが予想され問題となっている。〈2015〉</li> </ul>   |  |
| <p><b>長野<br/>西<br/>中条</b></p> | <p><b>【統合について】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○キャンパス校とは名称だけで、学校運営の面では旧中条高校とさほど変わることなく、校務分掌等の業務をやたらと軽減できない現状がある。〈2012-2015〉</li> </ul> <p><b>【施設・設備・予算】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○支援員についても、同窓会などから私費を使って、月3回、半日だけ来ていただくのがやっとで、とても生徒の需要に対応できない現状。〈2018〉</li> </ul> <p><b>【人的配置】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○中条校の管理職は「副校長」と「分校主任」で、「分校主任」は教諭が就きますが、おおむね「教頭」職的な業務をされており、実質「主任教諭」のようなものになっている。このままの配置なら、当然、加配があってもしかるべきで、そうでなければ「教頭」職を置いてしかるべきではないか。〈2014〉</li> <li>○学校司書が週1日のために、図書館利用が困難な状況〈2016〉</li> <li>○特別支援の重要度は高く、この陰には養護教諭や特別支援コーディネーターの献身的な努力があったからこそやってこられている。しかし今のままでは養護教諭や特別支援コーディネーターへの負担は増すばかりで、このままでは潰れかねない状況。〈2018〉</li> </ul> <p><b>【生徒の状況等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○バス料金がなくて保護者の負担が大きい。〈2016〉</li> <li>○地元(中条、小川、七二会)の子の他に、長野市街地からの子が多数を占めている。〈2017〉</li> <li>○中学校の時、不登校であったり、特別な支援が必要であった生徒が多数入学している。〈2017〉</li> <li>○募集停止をさけるために、中学校訪問や学校見学会の随時開催に追われている。〈2017〉</li> <li>○1学級40人定員だが、ここ数年は40名を下回る入学者であったことも幸いし、文字通りの少人数指導で、多くの生徒が成長することができている〈2018〉</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○人的措置の拡充</li> <li>・教職員の数を一人でも多く加配していただきたい。(正規教員の加配・兼務や再任用ショートの先生を多くしないように・教科の専門性を十分に考慮すること・年齢構成のバランスをよく考え、中堅教員を配置すること)</li> <li>・常駐の支援員や相談員、SSW等の時間確保。</li> <li>・学校司書と純非常勤職員の勤務日数増。</li> <li>・理科助手の配置。</li> <li>・「行政職員」現状維持</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>○募集定員を20名とする。</li> <li>○遠距離通学費補助の対象拡大。</li> </ul> |
| <p><b>篠ノ<br/>井<br/>犀峽</b></p> | <p><b>【施設・設備・予算】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○これまで本校独自の体制として、学校独自の予算(同窓会)で支援員に定期的に来ていただき、教育相談の一端を担っていただいていたが、独自の予算の捻出も限界となり、大変苦慮している。〈2016〉</li> </ul> <p><b>【人的配置】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○支援を要する生徒も少なくないため、学校独自の予算(同窓会)で</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>①教員の加配</li> <li>・定数増</li> <li>・図書館非常勤事務職員の勤務時間増</li> <li>・実習助手の配置</li> <li>・特別支援コーディネーターの</li> </ul>  |

|                  |   |  |
|------------------|---|--|
|                  | <p>定期的に支援員に来ていただいています。〈2015〉</p> <p>○特別支援コーディネーターの負担が大きく、授業にも支障がでる恐れがあるため、何らかの加配をしていただきたい。</p> <p>○平成 25 年度より学校司書および実習助手はいなくなり、図書館については非常勤事務職員が業務を行っています。事務員不在の際は委員である生徒が本の貸し出しをしています。理科の授業については、教員(担任)が実験の準備から片づけまですべて一人で行っています。〈2015〉</p> <p>○正規教員が 11 名しかおらず(若手とベテランしかいない。真ん中がない)、絶対的な人数が全く足りない。2 人×4 教科(国、数、英、体)以外の教科は 1 人しかいないので、出張や補習や授業の専門性などで苦しい状況である。特に理・社は科目の専門性がかなり重要な教科なので、正規教員が一人しかいない現状では生徒にとっても申し訳ない事態になっている。兼務や再任用ショート of の先生も複数名いらっしゃるため、学校行事運営やテスト監督などで他の教員の大きな負担になっている。〈2017〉</p> <p>○分掌の掛け持ちが、心身共に大きな負担がとなり、それが教育活動の制限につながりかねません。〈2016〉</p> <p><b>【生徒の状況等】</b></p> <p>○本校は、大学進学を目指す生徒と中学までの学び直しが必要な生徒が混在し、学力の差がとても大きいことが特徴の1つでもあります。大学を目指す生徒への進学指導と、中学時代に基礎学力を十分に身につけられなかった生徒へのきめ細かな教科指導を行うために、授業時間のみならず放課後の時間も使って生徒に向き合っています。〈2016〉</p> <p>○生徒数は少ないですが、課題を抱える生徒が多い中、教員による支援が十分行き届いていない状況があります。〈2018〉</p> <p>○行事の削減を迫られている状況であり、生徒に与えるマイナスの影響が大きいと考えられます。〈2019〉</p> | <p>負担軽減のための時間講師の配置</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スクールカウンセラーの時間増。</li> </ul> <p>②予算配分</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・支援員の確保</li> <li>・除雪機の購入</li> </ul>  |
| <p><b>屋代</b></p> | <p><b>【施設・設備・予算】</b></p> <p>○校庭を野球班、サッカー班、陸上班と一緒に使っているため、危険である。〈2017〉</p> <p>○附属中学校開設時に、敷地を拡張せずにHR教室と技術教室のみの中学校舎を建てたが、その他の教室や体育施設を全く増やさなかったため、理科教室、芸術教室、図書室、体育施設が不足している。中学の理科は高校の理科室で実験、音楽も同様。中学には司書不在の小さな図書スペースしかなく、離れた高校の図書館を利用。〈2019〉</p> <p><b>【人的配置】</b></p> <p>○本校は中学生・高校生・一貫生の高校1年生普通科、理数科を抱える複雑な学校になった。そのため、教科指導・講座編成などに新しい課題が生じており、人の配置が必要。〈2015〉</p>  | <p>○安全面や学習効率面という観点から、敷地の拡張を検討しながら、早急に理科、美術、音楽などの特別教室や中学専任の図書司書がいる中学図書館、体育施設(敷地を確保した第2グラウンドやテニスコート、第3体育館など)の増設をしていただきたい。</p> <p>○現在の教育環境を継続させるために教員配置を維持、さらに増やしてほしい。</p> <p>○中学校入試の期日は、高校3年生の進路に向けての指導で多忙な時期と重なります。時期を検討してほしい。</p> <p>○遠距離から通学する生徒の増加により、電車の混雑が増しており、しな</p> |

|           |  |   |
|-----------|--|---|
|           |  | の鉄道に増発や車両の増加を働きかけてほしい。  |
| 丸子<br>修学館 | <p><b>【施設・設備・予算】</b></p> <p>○生徒用更衣室がないため、生徒は体育の授業前、空き教室などで更衣をしている。(2018)</p> <p><b>【人的配置】</b></p> <p>○総合学科は生徒の講座選択を考えるとできるだけ幅広い講座を準備する必要があり、必然的に開講講座数は増加しそれに見合った人的配置を求められるが現状は十分ではない。今年度は、初任者(2名)と主任(生徒指導、進路指導、教務、総合学科)・管理職を除く60名の常勤者(教諭・講師)の内、授業・LHR等を週18時間以上持つ者が26名いて多忙を極めている。平成28年度から入学生徒の募集定数が1クラス分減り、教員定数が減になっているが、来年度も規定通りに教員が減ると今まで開講していた科目の講座を閉講にするか、あるいは教員一人当たりの持ち時間数を更に増やすかのどちらかとなる。しかし、開講科目を減らすことは総合学科の持つ特徴を失わせ存在意義を低下させる事にもつながり、また教員の多忙さや既に限界を超えている超過勤務時間等の現状を顧みると教員の持ち時間数を増やすのには無理がある。近年、要支援の生徒(ADHD等)も入学しその対応等に追われるが、それを支援する人的配置がなされていない現状では、十分な対応が出来ない。(2015)</p> <p>○総合学科高校という特質上、教務、進路、総合学科推進等の係の主任は、職務上の負担が大きいと、各主任の授業時間が、生徒主導主任と同等になるよう人的補償が欲しい。(2018)</p> <p>○総合学科の特質上、講座選択者の人数を均一にすることが難しく、講座数が増えてしまう。多くの職員数が必要になるが、講座を担当するのに十分な人員が確保できていない。そのため持ち時間が18時間を超える教員もいる。教育の質や教員の健康面を考えると無理な運営状況が続いている。(2019)</p> <p><b>【生徒の状況等】</b></p> <p>○総合学科は自由に選択でき、それなりの進路がやくそくされているかのような「都市伝説」が定着しつつあり、基礎的3教科(国数英)から離れようとする傾向がある。また自分の学びたい教科・科目がないと選択が難しい。(2013)</p> <p>○学習意欲が不足している、あるいは学校生活になかなか適応できない生徒も多く、担任はもちろん教科担当者も日々苦勞している現状がある。(2018)</p> | <p>○人的配置が一番の希望</p> <p>・正副担任の持ち時間が最大で16時間に収まるような人的配置が欲しい。</p> <p>・総合学科の特色を維持発展できるような加配が必要。</p> <p>・要支援生徒の対応のために、別枠で専門の人員をできるならば複数名配置をお願いしたい。今のままでは、要支援生徒を受け入れて指導していくには限界がある。</p> |
| 東御        | <p><b>【施設・設備・予算】</b></p> <p>○校舎改築について、既に設計が終わっているが、なかなか学校の望むような計画になりません</p> <p>○現在の校舎は、ストーブを焚いても寒い。断熱材などの防寒対策をお願いします。</p> <p>○新校舎は、少人数学級という本校の特徴を反映して、最大30人の</p>   | <p>○多部制・単位制ということであれば、多様な授業の展開が可能になるように教員を配置してほしい。</p> <p>○中学時代につまづいてしまった生徒のやり直し学び直しの意味がある本校である学校では、教職</p>   |

|                       |  |  |
|-----------------------|--|--|
|                       | <p>教室ですが、ストーブ・ゴミ箱・本棚などを置くと事実上25名の教室となっています。〈2015〉</p> <p><b>【人的配置】</b></p> <p>○東信地区唯一の多部制単位制の学校ということで地元中学や地域からの期待も大きく、本校も独自に多様な生徒(不登校経験者、学習障害など)にも対応できるように、少人数講座を作ったり、また授業も一般的な座学だけでなく、様々な工夫をして特色ある科目を増やして頑張っている。が、教員数が少ないために一人で何科目も持っていたり、非免許申請をして他教科の授業を受け持っている先生が大勢いる。〈2012, 2013〉</p> <p>○本校図書館では行政嘱託司書に勤務いただいています。〈2016〉</p> <p>○教室の規模からみても少人数集団(授業もHRも)にせざるを得ないが、HR担当が不足している。転勤即担任はもちろん、2期連続6年間とか、卒業後他学年に回るとか、そういう状況にあり担任の負担感が大きい。全担任ではないにせよ、担任が疲弊している状態は生徒にとっても、教員の健康面で見ても好ましくない。生徒40人が教員定数の基準かもしれないが、柔軟な対応を求めたい。〈2017〉</p> <p>○通級指導が始まったが、経験も知識も不足している。〈2018〉</p> <p>○5時まで授業がある中で養護教諭が一人というのは負担感が大きい。〈2019〉</p> <p><b>【生徒の状況等】</b></p> <p>○多部制単位制に移行し、少人数学級の展開によって生徒指導や学習面で成果を上げつつあると感じています。入学時のアンケートでは、本校を選んだ理由として少人数学級を挙げる生徒が多数おり、地域でも需要が高まっています。しかし、「学び直し」のために多様な科目を設置するなど、現状を維持するためには現在の職員数では足りません。1人あたり授業科目・持ち時間数の多さ、校務の多忙化で職員の負担は限界と思われまます。〈2015, 2016〉</p> <p>○不登校や特別な支援を必要としている生徒は年々増加しています。特別支援教育コーディネーターをはじめ、係として5名(内1人は養護教諭)いますが、授業もあるため対応に苦労しています。多様な生徒への対応のため、発達障害の生徒への対応が不十分になってしまっています。〈2015, 2016〉</p> <p>○かつての東部高校時代と比べ、市民の印象は変わりつつある。ただ、それは本校に入学する生徒が全体的におとなしくなったというだけで、学力的には大して変わっていない。また、おとなしくなったと言っても、不登校経験や特別な支援が必要な生徒等、新たな課題を生じている。〈2018〉</p> | <p>員数の加配をお願いします。</p> <p>○特別支援が必要な生徒に充分対応できるように、専任の職員を配置をお願いします。</p> <p>○そもそも多部制単位制への転換時に、必要なものはつくる、必要なものは準備すると当時の高校教育課長が言っていたはずなのに、お金がついたのは初年度だけとは。</p> <p>○加配・・・というよりも教員定数増をお願いしたい。少人数教育の実現は学校独自の(勝手な)判断で、それに伴う人的配置はしない(法に根拠があるから)というのでは、現場の徒労感は増すばかりです</p> |
| <p><b>佐久平総合技術</b></p> | <p><b>【統合について】</b></p> <p>○現在の最大の問題は、県内初となる2キャンパス制での運用である。北佐久農業校地(浅間キャンパス)と臼田校地(臼田キャンパス)が10km 離れている状況で、当初、県にはバスなど何らかの移動手段を確保する、という方向で話を進めて頂いていた。しかし、最終的にそういった類のものの保証はほぼなく、日常でのキャンパス間移動はもちろん、卒業式などの特別な行事日でさえも難しいということで何</p>   | <p>○本来、キャンパス校として設置したのは県なので、遠隔通信システム、移動手段の充実、費用負担は県の責務なのでは。このままでは、本校生徒が、他校生徒と比べ明らかに便利・費用負担の面で不利益を被る形になっている。</p>   |

っている。これでは、当初から謳ってきた“キャンパス間の一体感”はまったく保証されておらず、2キャンパス制の魅力はほとんどないと言わざるを得ない。(2014)

○県内初、という点では、3校(厳密には工業科は学校の一部だが)が同時に統合する、という点でも困難を感じた部分がある。各校のそれまでの流れや方針がそれぞれ違う中で、2校ではすり合わせる事が出来たことも3校ではより複雑化してしまったり、3校から集まっただけの会議が煩雑になって、連絡や決定事項が周知出来なかつたりと、現場の苦勞が極端に増加したように感じる。(2014)

○臼田キャンパスには総合学科である創造実践科を設置し、ここまでの臼田高校での学びを継承することが出来た点は非常にありがたいが、他県では1学年2クラスの総合学科は希有なものとして認識されており、教員定数や開講科目など、総合学科としての運用には多くの困難点を感じている。本学科の独自性を打ち出して何とかここまで対応してきているが、小規模の総合学科については今後見直す余地もあるのではないかと感じている。(2014)

○開校時「両キャンパスの一体化」を掲げ、入学式・卒業式・文化祭・クラスマッチ・強歩大会・修学旅行などの行事は合同実施を行った。ただ合同で行うには難しい側面があり、現在文化祭はキャンパスごとにした。またその他の行事も分離開催を希望する声は多い。いずれにしてもキャンパス間移動をどうするかなどの問題点は多い。行事を分離開催することは簡単だが、それでは「一体化」はどうか。2キャンパス制の難しい問題である。(2018)

#### 【施設・設備・予算】

○自転車置き場の不足、プールのフェンスが壊れたまま、電気代の不足(工業棟の増設、新しい機器が導入されたこと、クラス増によると考えられる)、旅費の不足(浅間Cと臼田Cの移動が多い。クラス・教員増によると考えられる)(2015)

○キャンパスが分断されているが、統合の時、県教委が約束した遠隔通信システムや連絡バスがないに等しいくらい不十分。部活のための送迎バスは保護者から「不十分・不公平」とクレームも来ている。(臼田キャンパス)(2019)

#### 【人的配置】

○事務室の負担増(両キャンパスの調整、入試、授業料等、浅間Cが全て負うためと考えられる)(2015)

#### 【生徒の状況等】

○部活動は同一校として各種大会に参加するため、一緒に活動したい。そのため、キャンパス間を移動するバスがある。でも、実際には、キャンパス間を移動するバスには全員乗ることができないこともあり、多くの部はキャンパス毎に練習をしている。しかし、両キャンパスに必ず指導できる教員がいるわけではなく、顧問によっては両キャンパスを行き来し、指導している顧問もいる。また、キャンパス間を移動して練習をする生徒も、移動のバスに全員が乗り切ることができないことがあり、顧問が乗せ移動するか、公共交通機関を利用しないと全員が移動できない場合もある。さらに、そのバスの費用は私費から賄われており、保護者負担となっている。(2019)

○予算面での問題があるのはわかるが、見切り発車での発言は現場としては厳しい。結局中学生や保護者からの質問に対処するのは現場であり、例えば「キャンパス間を移動出来るよう、バスを用意する予定です」、「新校の一体感を出していきたい」と言っていた状態から、手の平返しで返答を変えるのは心苦しい。

○小規模とは言え、総合学科としてより内容を充実出来るよう、教員定数の加配や設備の充実をお願いしたい。

|                  |  |   |
|------------------|--|---|
| <p>岩村<br/>田</p>  | <p><b>【統合について】</b><br/>○新校準備のため会議が多く、忙しい。〈2014〉</p> <p><b>【施設・設備・予算】</b><br/>○工業科のクラスのHR教室があった普通教室棟3Fには女子トイレがなく、普通科のみで女子が多くなった現状では、女子トイレの新設か改修が必要である。〈2015〉<br/>○工業科のHR教室を学習室にしたいが、机・イスが不足しており、十分な収容力がない。机・イス購入のための予算付けを願いたい。〈2015〉<br/>○普通科単独になり2年が経過するが、工業棟及び施設の利用に関して見通しを持って撤去されるとはおもえない状況がある。今の建物を取り壊すだけではあまりに杜撰。ある程度今後の見通しを持って進めて欲しい。特にトイレの撤去について十分利用が考えられるものであるため(公式行事の際など)再検討してほしい。〈2016〉</p> <p><b>【人的配置】</b><br/>○普通科単独校になり、職員大幅人数減 分掌やクラブの兼務が増えて、職員の負担が激増。そう簡単に分掌やクラブを減らすことはできない。〈2017、2018〉</p> | <p>○工業科棟の有効利用、工業科棟跡地の利用について、現場の意見を吸い上げて予算の配当・事業の推進を行ってほしい。工業科のクラスのHR教室があった普通教室棟3Fには女子トイレがなく、普通科のみで女子が多くなった現状では、女子トイレの新設か改修が必要である。</p> |
| <p>望月</p>        | <p><b>【人的配置】</b><br/>○募集停止(2クラス減)とともに習熟度の加配もはがされようとしており、定数減は4以上ようすである。今でも多忙で大変なところ、これ以上減らされれば分掌の業務をこなすには厳しい状況である。〈2018〉<br/>○来年度(最終学年)の定数について学校長は未確定の部分もあるためか、全体場で示すことはなかった。その間、職場会などで情報の交換を試みたところ、来年度はフルを10名確保するのはかなり厳しい状況であり、しかも来年度の持ち時間の関係から芸術に関しては全科目で非常勤対応となることが判明した。確定交渉では「再編対象となった望月高校に在籍する生徒が卒業するまで十分な条件整備を行うこと」という要求に対して、「在校生の教育に十分配慮していきたい」という回答がある。この回答により、「単なる授業の持ち時間数からの定数計算に終始することなく、「在校生の教育に配慮」するためのことを考えて、来年度の本校の職員数を決めてほしい。〈2019〉</p>   | <p>○「単なる授業の持ち時間数からの定数計算に終始することなく、「在校生の教育に配慮」するためのことを考えて、職員数を決めてほしい。</p>   |
| <p>諏訪<br/>清陵</p> | <p><b>【中高一貫について】</b><br/>○中高の6年間をスパンとして生徒の成長を見守る体制を構築しようとするとき、高校で7年、中学で3年が異動の基準となっていることは大きな障害である。〈2016〉</p> <p><b>【施設・設備・予算】</b><br/>○初度調弁が終了し、中高合わせたの需用費での日々の運用となっているが、高校単独の頃から予算が増えておらず、非常に苦しい中でのやりくりをしている。特に事務室では光熱費など経費節減に懸</p>  | <p>○中学校職員の下肺をお願いしたい。<br/>○非常勤でもいいので司書の複数配置を検討していただきたい。<br/>○2校分とまではいかなくとも、需用費の増額。備品・消耗品に加え図書費も是非増額を検討していただきたい。</p>                    |

|                         |   |  |
|-------------------------|---|--|
|                         | <p>命に取り組んでくれているが、焼け石に水の感がある。教材や教具を自腹で購入している職員もいて、何とかして欲しい。〈2016〉</p> <p>○体育施設等の共用には限界があり、特にクラブ活動においては非常に不便な状況の中で生徒たちは頑張っている。〈2016〉</p> <p><b>【人的配置】</b></p> <p>○図書館について、中学生の利用も多く、授業利用もあり、2校分の対応を1人でするのは困難。中学の図書委員会も活発に活動していて、中学の仕事をしている時の方が多いかもしれない。〈2015〉</p> <p>○職員の多忙化(特に中学校)夜の8時9時過ぎまで電気がついてるのが当たり前になっている。〈2017〉職員の多忙化(特に中学)が深刻。〈2016〉</p> <p>○中高一貫に加えてSSH指定校でもあることで、教材準備や校務が多岐にわたり独特の多忙感を生んでいる。特に教科「情報」の学校設定科目の関係で、図書館司書の仕事量が膨大になっており、複数配置は必ず実現してほしいことである。〈2018〉</p> <p><b>【生徒の状況等】</b></p> <p>○付属中学校第1期生が高校3年生になっている現時点で、その成否の見極めは出来ないが、高校入学志願者の増加という形には至っていない。中学不合格になった受験生が、3年後はむしろ別の高校を志願する傾向が強いのが厳然たる事実である。〈2018〉</p>   | <p>○体育施設等の新設。新設が難しければ近隣の施設を借りやすくする方策をご検討いただきたい。</p> <p>○校舎・施設設備については、共用により不都合も多い。長期的でよいかから工夫をお願いしたい。</p> <p>○中高一貫校の特例として以下のことをお願いしたい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 勤務年数制限の緩和</li> <li>② 義務の「僻地手当」のように、一貫校には有利な給与の側に合わせるようにする。</li> <li>③ 「公募」により意欲のある職員を集められるようにする。</li> </ol>   |
| <p><b>箕輪<br/>進修</b></p> | <p><b>【施設・設備・予算】</b></p> <p>○Ⅲ部施設について:再編に伴う校舎の新築工事の予定が変更され、新設された校舎は少人数学級を想定していたため小規模な教室となっている。職員室も同様に狭い空間であるため、生徒と職員が対話をする空間を作り出すことができない。〈2014〉</p> <p><b>【人的配置】</b></p> <p>○コーディネーターが仕事を分け合う、引き継げる人的配置がない。過重労働を強いたまま10年が経過した。〈2016〉</p> <p>○単位制、多部制高校における通級指導教室の導入について、3年間の指定校と1年間の準備期間を終えようとしているが、県からの正式な加配等の話はなく、現場まかせとなっている。〈2017〉</p> <p>○小集団が望ましい状態は明らかのため、講座、学級数を増やしているが、そのために教師の負担は大きい。特に分掌上、少人数とはいえ担任を持ちながらの重い分掌、または担任の持ち手の不足など、バランスを欠いている。〈2017〉</p> <p><b>【生徒の状況等】</b></p> <p>○あらゆる方向へ可能性を拓けた結果、学校の方向性を見失い職員は不安の中で日々の仕事に追われている。入学者の中には、様々なニーズを抱えた生徒がいて、地域の中学校からはそうした生徒を受入れてくれる学校としての期待のみが大きく、学校設立当初に掲げた生徒像とは大きく乖離しています。〈2012〉</p> <p>○心身の課題を抱える生徒が多く入学しており、上伊那地域だけでなく隣接する地域からも入学している。〈2015〉</p> <p>○中学までに学習の積み重ねのない生徒に対して精一杯の援助・支援を行い教職員は疲弊している。Ⅱ部への入学希望者は普通科Ⅰ部を上回り、今年度は1学級20名を超えてスタートした。単位制・多</p> | <p>○多部に渡る授業や、多様な学習状況に対応できる少人数授業及び少人数学級を維持保障するため、超過勤務にならないよう職員の加配を引き続きお願いしたい。</p> <p>○教職員(特に教育相談係、特支コーディネーター)には、独自に専門性が必要だが、専門性を身につける努力、時間を個人任せにせず、教職員の将来性にも方向を示しバックアップしていただきたい。特支Coの転勤が非常に困難である。</p> <p>○特支Coの経験年数による優遇制度、専門性が異動に生かされる制度、学習、資格取得のための補助などにより、特支Coの受け手を増やす努力、特支Coの質的向上に善処いただきたい。</p> <p>○「通級における指導」については専門性、自立活動の経験のある教職員が必要である。高校における通級指導が形だけにならないよう実施校間に定期的な交流の機会をお願いしたい。</p> <p>○困難を抱える生徒を多く引き受ける学校を作ったからには、日常の学習</p> |

|                                  |  |  |
|----------------------------------|--|--|
|                                  | <p>部制高校のメリットとして掲げている「少人数学級の実現」とはならず、保護者や本人の願いに物理的に応えることができにくい。せめて15人以下が適正規模である。〈2018〉</p> <p>○生徒の家庭的な背景においては外部資源との連携を持っても解決できにくい問題が学級内に複数件ある。貧困の他、家族や本人が病理を抱える場合も含まれる。担任は対人関係に困難を抱える生徒、複数件の友人間トラブルに対応しながらそれぞれの事態収束までには数ヶ月を要している。実態把握、支援体制について協力、連携があっても時間的、精神的な負担は大きい。〈2018〉</p> <p>○特別支援対象生徒の就労が困難である。本校には障がい者就労担当の特別支援教育コーディネーターを配置しているが、校外にも出かけ就労の繋ぎ、実習、就労した生徒のアフターフォロー、企業から卒業生の相談も受け負わざるを得ない状況にある。公的に利用できるはずのジョブコーチの役割も学校が背負い、大変な負担がある。〈2014〉</p>  | <p>環境を整えるために適正な人的資源の配置と、物理的な援助をお願いしたい。</p>   |
| <p><b>飯田<br/>OIDE<br/>長姫</b></p> | <p><b>【統合について】</b></p> <p>○統合により生徒数、職員数が統合前の2倍規模に増加したことから、学校運営に必要な諸経費も大幅に増加している。また、進路保障のための出張の増加やクラブ数も増え活動が活発化していることにより、旅費不足が生じている。〈2013〉</p> <p>○文科省による「地域との協働プロジェクト」参加による打ち合わせ出張、研究のための負担が大きい。〈2019〉</p> <p><b>【施設・設備・予算】</b></p> <p>○統合によるクラブ数や部員の増加によって、グラウンドは手狭となり、体育館の使用も調整が必要となり、練習場所の確保が心配される。〈2012〉</p> <p>○校舎が大規模化したが、身体に障がいのある生徒への配慮の乏しい建築構造で生徒の移動が大変。〈2017〉</p> <p>○(定時制)統合後、特別支援教育のニーズが増加している。定時制専用の教育相談室の設置を実現してもらいたい。(とにかく空き部屋が学校の中に不足している)。〈2017〉</p> <p><b>【生徒の状況等】</b></p> <p>○統合により生徒が抱える問題がさらに多様化しました。〈2015〉</p> <p>○(定時制)学級人数が多すぎる。外国籍や特別なニーズが必要な生徒、不登校の生徒が多く、30人を超えると、対応が難しい。就労に様々な理由で向かえない生徒が多い。特に生徒数が県で最多となるのが恒常化しているので、学校のセーフティネットの役割を果たせない。非免許で他教科を教える教員が生じている状況。専門性に関わる問題で生徒にとっても教員にとっても良くない。〈2014〉</p> <p>○(定時制)通学圏が広域化したために電車の時間に合わせた学校日課の設定が難しい。これについてはこれといった対策はないが、定時制の統合はこのような困難な環境を形成していることについて問題意識を持ってもらいたい。〈2017〉</p> | <p>○既存校舎、設備の老朽化のための予算確保</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教室の床</li> <li>・壁の補修</li> <li>・階段の床面のはがれ</li> </ul> <p>○予算配当を統合前の2校を合わせた程度に増額していただきたい。特に、新校の伝統を作ろうと頑張っている生徒の活動を支援するためにも、旅費・需要費の増額を強くお願いしたい。</p> <p>○再編に伴う職員加配の解消については、校務に支障をきたさないよう配慮をお願いしたい。特に定時制では、統合後の年数だけで加配した定数を減らさないでほしい。</p> <p>○発達支援専門職を週1回でもいいので定期的に学校に配置してほしい(定時)</p> |

|                         |  |  |
|-------------------------|--|--|
| <p><b>蘇南</b></p>        | <p><b>【人的配置】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○総合学科として3つの系列(文理、ビジネス、ものづくり)があり、選択科目が多いことから教員1人ひとりの持ち時間が多い上に、分掌の負担も大きい。(2017)</li> <li>○生徒の学力の幅が極端に広い⇒それに対応する教員の経験年数が極端に少ない。(2018)</li> <li>○総合学科に関わる業務、商業、工業の資格取得のための業務が通常の業務の上のしかかっている。(2018)</li> <li>○養護教諭の業務は小規模校であっても、対応する生徒が多ければ、その量は大規模校に匹敵する。また、身体的、精神的に不調な職員にも対応しているため、年々業務量は増加している。(2018)</li> <li>○生徒数確保のため今後も多様な生徒を受け入れることとなるが、県境の地にあるため異動を希望する教員は数少なく、職員構成は初任、講師が多数を占めており、生徒指導の経験不足は否めず、少ない経験の中で教員一人ひとりの過重な労働力に頼らざるを得ない状況である。学力が定着していない生徒への学習支援や、就職に配慮を要する生徒への就労支援と、通常の指導以外に関わる人的資源の必要性を感じる。(2019)</li> </ul> <p><b>【生徒の状況等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○総合学科に再編されてから10年が経過し、ようやくキャリア教育を中心とした総合学科の特色を活かした教育が実を結びつつあり、地域や中学生、その保護者からも認知されてきている。ここ4年間は入学者も増え、再編基準である160人を上回っては来たが、木曾郡内の少子化に加えここ数年増加していた岐阜県からの流入も減少しつつあり、再編の危機が予想される。(2019)</li> <li>○生徒数確保のため、管理職による中津川市内中学校への説明会で一定数の生徒は確保できているものの、多様な生徒の受入れによりその指導に苦慮している。また学力の幅も大きく、個々の進路実現には大きな労力を必要とし、校内の努力だけではまならず、外部との連携が重要となっている。(2019)</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○困難を抱える生徒に対応し、経験年数の少ない教員集団へのサポートが出来る、経験のある支援員の配置をお願いしたいが、地域に人的資源が乏しい。</li> <li>○「学びの改革」において、少人数学級がどうい場合において適用されるのか明確にさせていただいて、特別支援教育推進計画とリンクさせて体制づくりをお願いしたい。</li> <li>○幅広い学力の生徒に対応するため、特に低学力の生徒の学び直しのための加配、もしくは教育支援員(TTを行うため)の配置をお願いしたい。</li> <li>○養護教諭が出張等で不在の時に保健室にいてもらえるよう、非常勤の養護教諭を配置していただきたい。</li> <li>○モデル校としてではなく、単純に少人数学級の実現をお願いしたい。それに伴って、中山間地存立校の再編基準の在籍生徒数160人以下、かつ～、の160人を引き下げていただきたい。</li> </ul> |
| <p><b>木曾<br/>青峰</b></p> | <p><b>【統合について】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○木曾地区の生徒数が激しく減少している。学級減の度に普通科を減らしたため、現在、理数科1、普通科1、森林環境科1、インテリア科1の4学級になっている。次の学級減では学科の存続にかかわってくるので、将来像の検討がやりにくくなっている。(2015)</li> </ul> <p><b>【施設・設備・予算】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○合併によってできた専門科棟のトイレは非常にきれいで洋式トイレである。それに対して本校舎の方は、木曾高校の校舎をそのまま使用しているためトイレの老朽化が激しく洋式トイレは数えるほどしか無く、トイレのドアもガムテープで補修してあるところもある。(2017)</li> <li>○統合時の約束(①統合時に消失した4面のテニスコートの確保、②専門科棟との渡り廊下設置)が守られないまま現在に至っている。①について、当初は木曾町も県教委も動き出したものの、立地条件が合わなかったこと、予算的な面もあり、停滞している。(町営テニスコートは遠く、安全に欠ける。)②についてもすぐに取り掛かる計画だっ</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○地域高校の35人以下学級の先行実施を何としてもお願いしたい。40人に固執しては、事態は悪化する一方である。</li> <li>○統合により消滅したテニスコートを授業、部活動など学校の教育活動において再び活用できるよう新設をおねがいします。</li> <li>○生徒、教職員のスムーズな移動と校用通行車両からの安全確保のため、管理教室棟と専門学科棟の連絡通路(渡り廊下)の早急な設置をお願いいたします。</li> <li>○専門科や複数学科をもつ学校に対する図書費の配慮をお願いしたい。</li> </ul>  |

|                         |  |  |
|-------------------------|--|--|
|                         | <p>たものが、本館の耐震工事終了を待つことになり、その後予算面から立ち消えている。当時から随分時間がたち、それを知る普通科職員はいない。専門科のごくわずかな先生方のみである。正式な書類が交わされていないことも、問題である。(2018)</p>   | <p>ニーズに対応するための資料が不足していることから、生徒や教職員へ充実したサービスを提供するためには、十分な図書費が必要である。</p>   |
| <p><b>松本<br/>筑摩</b></p> | <p><b>【施設・設備・予算】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○午前部・午後部、夜間部、通信制の 2 課程 3 パート構成のため校舎の統一的な整備が行われておらず、整備の遅れや校舎間の格差、機能性の欠如が目立つ。(2017)</li> <li>○再編前のそのままの校舎、施設・設備で再編が行われたため、老朽化や使いにくさなどのしわ寄せがきている。(2018)昭和 40 年代築の校舎が殆ど改修されずに使われているため鉄サッシの残存による立てつけの不具合や、水道設備の不備(一部冬期間使用禁止)が目立つ。(2017)</li> </ul> <p><b>【人的配置】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○多様な生徒への対応に配慮している。(2018)</li> </ul> <p><b>【生徒の状況等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○問題行動への対応で、不登校で学びなおしたいと入って生きた生徒や特別なニーズのある生徒への対応が後手に回っている。(2013)</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○老朽化した校舎の改修 <ul style="list-style-type: none"> <li>・手すり摺り設置の続行</li> <li>・トイレの改修</li> <li>・合宿所の撤去</li> <li>・第2棟の黒板の改修</li> <li>・窓枠の改修</li> </ul> </li> <li>○精神的な疾患に対処できる専門家に常駐してほしい。養護教諭の配置を各パートに1ずつにしてほしい。通信制は1必要(現在 0.5)。</li> <li>○自校給食が再開できるように県費による給食補助をお願いしたい。</li> </ul>  |
| <p><b>大町<br/>岳陽</b></p> | <p><b>【統合について】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○新校の教育課程(案)を作成中ですが、ターゲットとする生徒像がはっきりとしないため(特に普通科)方向性が見えない。(2012)</li> <li>○忙しすぎる。新校について決めなければならないことがたくさんあるが、合同の会議がなかなか持てない。また、持とうとすると会議の連続で、部活など現生徒が疎かになってしまう。(2013)</li> <li>○現在習熟度別や選択授業に使用している講義教室も HR 教室で使用するので、仮設校舎で授業教室が確保できない。実際授業ができるのかとても不安である。H28 年の 2,3 年生は別々のカリキュラムや行事を行うことを約束しているので授業や行事がとても煩雑で、時間割も組むことが可能なのか心配である。教える科目も増え教科書を何冊も持ち教材作りをしなければならないのではないかと不安である。また、行事も複雑である。時間をやりくりしてどちらかの学校に向き会議を行っているが、決定までには時間と労力が膨大にかかる。一方で地域の期待も大きく校内のみならず、さまざまな課題を調整しながら決定していくことは本当に苦労が絶えない。(2014)</li> <li>○一斉統合ということで一つの学校の中に「旧北校」「旧町校」「旧理数科」「新岳陽」「新岳陽学究科」という 5 つの学校がある状態で授業のやり繰り、時間割に無理があり、新校になって大変だった。(2016)</li> <li>○開校の年に新校舎が間に合わずプレハブ教室で進行が始まったことが最大の問題点。それまでの改築も新たな場所に(校庭とか他の土地)新校舎を建てるような計画にすれば、引越しも 1 回で済んだのに。とにかく計画が杜撰。(2016)</li> </ul> <p><b>【施設・設備・予算】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○将来の生徒数を見込んだ設計の為なのか、現在の生徒数にたいし</li> </ul> | <p><b>【統合に際して】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○課題が山積している。準備期、移行期には専任で新校づくりにあたれるような人的配慮をお願いしたい。加配は絶対に必要であるし、統合後数年は十分な職員数の配置をして欲しい。</li> <li>○引越し等に関わる予算はしっかり配当していただきたい。</li> <li>○校舎と体育館の着工・完成予定をもっと計画的に進めてほしかった。</li> </ul> <p><b>【現在】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○統合により幅の広い生徒層が入学してきているので、現在でも行事や教育課程には多くの問題点がある。多様な生徒に対応できるように、できるだけ教員の配置などをお願いしたい。</li> </ul> |

|  |   |  |
|--|---|--|
|  | <p>て普通教室の数が少なく、講座編成等で制約を受けている。<br/>〈2017〉</p> <p>○校舎新築の際、グラウンドに仮設のプレハブ校舎が建てられました。跡地となったグラウンドの整備が不備の為、グラウンドは安全に使用できない。野球部の生徒がイレギュラーしたボールで、顔面骨折の重傷を負っている。〈2018〉</p> <p><b>【生徒の状況等】</b></p> <p>○統合により生徒の学力差が著しくなり、普通科の教育課程は進学校と地域高校とを合わせたような設定とならざるを得ず、個々の生徒の要求や実態に合っていない。〈2017〉</p> <p>○学力差が大きいため、少人数授業や普通科では進路選択に合わせ、文系、理系、看護医療系、教養コースを設定し、生徒の力をつけようと取り組んできた。しかし学級減に伴い教員の定数減の影響で、取り組みが困難になりつつある。〈2019〉</p> |  |
|--|---|--|